

# 令和4年度第1回 岡崎市美術博物館協議会会議録

## 1 開催日時及び場所

令和4年7月27日（水）13:55～16:01

岡崎市美術博物館 1階セミナールーム

## 2 出席委員（定数10名 1名欠席）

会 長	澤 博史	（社会教育・家庭教育）		
	井上 瞳	（学識経験）	長坂 博子	（学校教育）
	鈴木 章司	（社会教育）	太田 公典	（社会教育）
	加藤 安信	（学識経験）	林 羊歯代	（学識経験）
	菅沼 和子	（市民公募）	倉光 智子	（市民公募）

（欠席委員は、石原 真吾（学校教育）1名）

## 3 館長及び説明のため出席した事務局職員（8名）

美術博物館特任館長	榊原 悟	社会文化部長	安藤 治樹
美術博物館長	前島 豊	美術博物館副館長	大澤 一実
地域文化広場館長	三宅 葉子	地域文化広場学芸員	真山 陽理子
美術館長	村松 和明	美術館副館長	倉橋 浩二

## 4 会議の成立

事務局より、委員10名のうち9名が出席のため、岡崎市美術博物館管理規則第8条第2項の規定により、本日の会議は成立していることを報告した。

## 5 会議の内容

### 次第2 報告事項

（1）令和3年度 展覧会開催結果について

議 長＝事務局から説明をお願いします。

事務局＝（令和3年度に実施した美術博物館、地域文化広場の展覧会について、入場者数、各種企画内容等を資料に沿って説明）

議 長＝ただ今の説明について、ご意見・ご質問はありますか。

委員A＝展覧会の時に来場者アンケートを実施しているか。

事務局＝展覧会毎にアンケートは実施している。

委員A＝アンケート結果を分析し、以降の展覧会に活かすべきだと思う。本協議会にも資料を示してもらいたい。

委員B＝「美術にまつわる5つの話」の入館者数はそれまで実施していた「暮らし展」とそれほど変わらないが、今までと違う印象で、展覧会を作っている学芸員が身近に感じられてよかった。よい展覧会だったので、もっとPRできるとよかった。

事務局＝ご意見を参考にしたい。

特任館長＝収蔵品を活用した展覧会を評価していただいてありがたい。

今後も開催を検討していきたい。

## (2) 令和4年度 展覧会開催状況について

議長＝事務局から説明をお願いします。

事務局＝(会期を終えた美術博物館、地域文化広場の展覧会の入場者数、各種企画内容、今後予定している展覧会等の内容を資料に沿って説明)

議長＝ただ今の説明について、ご意見・ご質問はありますか。

委員C＝「名取春仙展」、「え！ほん展」どちらもいい内容だったが、令和3年度と比べて入館者数があまり多くなかったのは残念。PRをもっとできないか。

事務局＝「名取春仙展」は歌舞伎に興味がある方には面白かったと思うが、なかなかそれ以外の方に興味を持って足を運んでもらえることが少なかった。

委員C＝どちらもいい企画だったので、テレビなどに取り上げてもらえるとよかった。

委員D＝「春仙展」は歌舞伎が好き人は興味があったと思う。最後にあった役者の系図は前の方に掲示したほうがよかったのではないか。また版画作品は同じ大きさの作品が多いので、興味があまりない人は退屈したかもしれない。版画と写真を並べて展示しているのはよかったと思う。

特任館長＝歌舞伎役者の写真の掲載・展示などは肖像権の絡みもあり、制約が多く、苦労した。今回は収蔵品を活用した独自企画で、マスコミに働きかけているが、うまく広報できなかった。今度努力していきたい。

委員B＝数年前に別の場所で文楽の講演会があったが、前日にレクチャーを実施していた。「春仙展」もちょっとした前知識があると、興味を持つきっかけづくりになったと思う。

事務局＝SNSなどでも発信しており、PRには努めているが、今後はメディアに対しても、もっと働きかけていきたい。展示構成や内容などについても検討していきたい。

委員E＝「春仙展」もよかったが、隣の「ミニ展示」はキャプションに学芸員の個性が垣間見える記述があり、同じように楽しめた。新聞形式の作品解説「新発見と再発見」は、資料購入のエピソード等も含まれており、大変おもしろかった。これは学芸員のリアルな声を発信するツールにもなり、その意味で令和3年度の「美術にまつわる5つの話」の小冊子がよかったので、継続していただけるとよい。

議長＝竹島水族館がスタッフの手書きの感想などで工夫したように、人の心をつか

む展示方法や解説の仕方もあるので、参考にしてほしい。

委員F＝「春仙展」の系図や重ね押しスタンプは版画や浮世絵の仕組みがわかり、よかった。ただ、タイトルだけでは小中学生が来館するのは難しいと思う。岩合展や水木展のようにタイトルだけでわかるような展覧会は別として、展覧会名を少し工夫することで集客につながるのではないか。

委員B＝日本多忠次邸のラリック展もよかった。連携割引のことはチラシでもごく小さい記載しかないので、わかりにくい。セット券があるといいのではないか。

事務局＝「え！ほん展」については、鑑賞型の企画であり、現在開催している「宇宙博」のように参加体験型の企画と比較すると集客には結びつかなかった。

委員C＝人数だけではないが、せっかくだいい展覧会だったので、もう少し多くの子供たちに見てもらえるとよかった。

事務局＝共通券についても、今後検討したい。

### （３）令和３年度新収蔵資料について

議長＝説明をお願いします。

事務局＝（令和３年度に購入又は寄附・寄託を受けた作品・資料について説明）

議長＝ただ今の説明について、ご意見・ご質問はありますか。

委員G＝収集した資料は入手後なるべく早く報告してほしい。季刊誌「アルカディア」などに掲載するなど検討してもらいたい。

委員C＝寄託資料含め、何らかの形で公開できるといい。また、美術館・博物館は研究や研究成果の発表が大事だと思うので、資料購入予算もきちんと確保して欲しい。

事務局＝市として収集すべき予算が収集できるよう予算確保に努めていきたい。

議長＝美術博物館の根幹にかかわる話だと思う。必要な予算は我々委員や市民、議会の理解も得ながら予算を獲得していくべきだと思う。

委員A＝購入していくのも大事だが、既にある資料も活用していく展覧会も大事だと思う。巡回展は予算もかかるので、多くの入館者が見込める展覧会だけでなく、自主企画展が開催できるよう学芸員の力を付けて欲しい。

委員D＝収蔵スペースも余裕がないとのことだが、収蔵庫の計画はどうなっているのか。

事務局＝現在計画は動いておらず、お伝えできる内容がない。

委員D＝今年度美術館の収蔵庫を見たが、スペースに余裕がなかった。今後もあきらめることなく、収蔵庫の必要性を要望して欲しい。

### （４）教育普及事業について

議長＝事務局から説明をお願いします。

事務局＝（令和３年度の教育普及事業について、資料に沿って説明）

議長＝ただ今の説明について、ご意見・ご質問はありますか。

(意見・質問はなし)

(5) 美術館展示利用実績について

議長＝事務局から説明をお願いします。

事務局＝(令和3年度の美術館入場者数、展示室の稼働率等について、資料に沿って説明)

議長＝ただ今の説明について、ご意見・ご質問はありますか。

委員C＝令和元年度、令和2年度と比べ、新型コロナの影響はあったのか。

事務局＝令和3年度は新型コロナによる閉館日なかったが、令和2年度は臨時休館があった。

委員C＝入場者数合計が68,000人を超えているが、それだけ多くの来館がある美術館の来館者が美術博物館にも行けるような手立ては考えられないか。

事務局＝美術館の来館者は市民のグループで展覧会を開催するため、展覧会の関係者が多い。美術に関心のある方が多いので、美術博物館にも来館いただけるといいと思う。交通手段は開館以来の課題ではあるが、解決策がない状況である。

他館の事例等も参考に工夫をしていく必要はあると思うので、今後もよいアイデアがあれば、会議に限らず事務局までご意見いただきたい。

議長＝交通手段については、過去何度も議論になっているが、難しい問題である。

美術館の展覧会は出品者が知り合いに電話するなどかなり努力しているので、地道な活動も必要であると思う。

委員B＝美術博物館の屋外で散策する人なども館内のトイレを利用したり、通り抜けていく方がいるので、その方たちに向けても地道にPRしていくといいと思う。

次第3 議事

令和5年度開催予定の展覧会について

議長＝それでは議事の令和5年度開催予定の展覧会について、事務局からの説明をお願いします。

事務局＝(令和5年度開催の各展覧会について、開催予定期間、内容等を資料に沿って説明)

議長＝ただ今の説明について、ご意見・ご質問はありますか。

委員B＝「至高の紫 典雅の紅」はすごくいいタイトルだと思う。「ひらいて、むすんで」はタイトルだけではわかりにくい。補完するものが必要だと思う。大河ドラマは各巡回会場で同じ展示になるのか。

事務局＝巡回展ではあるが、各館で全く同じ展示品というわけではない。現在出品史料含め調整しているところである。

委員G＝岡崎公園に大河ドラマ館ができると思うが、美術博物館の展覧会ときちんとすみわけをしてほしい。

事務局＝市のワーキング・グループでも大河ドラマ館と美術博物館の展覧会について

のセット券、割引券、バスなどの検討を進めているところであり、委員のご意見も踏まえて検討していきたい。

委員C＝自主企画で、収蔵品を活用する展覧会も多くて大変だろうが、いい展覧会になるよう期待している。

委員E＝「ひらいてむすんで」は学芸員独自の視点で収蔵品を紹介する展覧会になるのかと思う。そうした学芸員の存在を前面に出す展覧会を今後もぜひ継続してほしい。展覧会タイトルのネーミングやカタログデザインをトータルに企画し統一感をもたせると、他の企画展との違いも出て、期待感も高まっていくと思う。

事務局＝ご意見については、学芸会議でも反映していきたいと思う。

委員D＝美術館で開催していた地元作家の展覧会はどう考えているか。

事務局＝間隔を開けてにはなるが、美術博物館で開催する必要があると認識している。

議長＝それでは、ご意見も尽きたようですのでお諮りします。令和5年度に開催予定の展覧会の事務を執り進めることについて、承認してよろしいでしょうか。

(全員承認)

議長＝令和5年度開催予定の展覧会計画については、承認されました。事務局におきましては、ただいまの意見を踏まえて、準備を進められるようお願いをいたします。予定の議事は終了しましたが、「4 その他」について、事務局から何かありますか。

事務局＝(美術館のアートヴィレッジ事業について内容等を資料に沿って説明)

議長＝ただ今の説明について、ご意見・ご質問はありますか。

委員D＝アートヴィレッジが盛況なのは、良いことだと思う。美術館の美術講座や講演がなくなり、紙版画の講座などを復活させてほしいという声がある。

事務局＝予算などの問題もあるが、アートヴィレッジの活用含め、できることを検討していきたい。

## 閉会あいさつ

特任館長＝本日は貴重なご意見を頂戴しありがとうございます。皆様のご意見も踏まえ、今後もいい展覧会ができるよう努めたい。皆様のご支援よろしく申し上げます。

事務局＝以上で令和4年度第1回岡崎市美術博物館協議会を終了させていただきます。次回は2月に令和4年度の第2回会議を予定しておりますので、よろしく申し上げます。本日はありがとうございました。

—以上—